

## 要 旨

### The Wearing of Masks in Japan :

#### Impressions of Non-Japanese and Influences on Nonverbal Communication

千代間 泉

日本人はどうしてマスクを着けるのか、という質問は訪日外国人観光客（英語圏）を案内する際に度々挙がる。日本では公衆エチケットの一つであるマスクだが、英語圏の人々とはその考え方に乖離があるように思われた。本研究では、日本人がマスクを着用する理由、又顔の表情、特に口を隠すことは、どのような障害を非言語コミュニケーション上に及ぼすのか、について調査した。

参加者は2つの対象に分けて行われた。第1は日本人男女18才～80代の152名で、4つの年代別グループに分けられた。第2は訪日外国人の内、中国語が母国語の人々28名、並びに英語が母国語の人々45名の2グループである。調査は質問紙記入の協力を得て行われた。

Part 1では、マスク着用理由について、日本人は、自分や周りの人々の健康を守る咳エチケットとして着用する事が明らかになった。特に40代～80代までの男女にその傾向が見られた。「マスク依存症」を裏付ける結果は出なかったが、ごく少数の18才～30代の男女（特に女性）において、マスクに対する抵抗は低く、精神的な快適さ、安心感を求める率が高かった。女性の内18才～30代の女性の半数が、病気の有無にかかわらず、化粧をしない時にマスクを着けると回答した。

Part 2では、日本人が、マスクを外すべきと思う時と場合について調査した。その結果、マスクをすると顔の表情が隠され、コミュニケーション上失礼だ、との意見が日本人参加者の多数を占めた。しかし本当に自分自身が病気、又病気の予防が必要な時に、周りの迷惑にならぬよう、着用する事がわかった。同時に正式な場、目上の人に会う場面等、コミュニケーション上第一印象を良くする為、適宜外す事が明らかになった。顔の表情の必要性は40代～80代の男女に、より多くみられた。18才～30代の男女（特に女性）において、病気であっても就職面接の場面ではマスクを外

す、という回答が大半を占めた。

Part 3では、訪日外国人の日本のマスクについての印象、影響及びコミュニケーション上での障害、について調査した。その結果英語話者と中国語話者では明確な違いが現れた。英語話者はマスクに対して、より不快感、違和感及び阻害感が大きく、聞き取りにくい事が明らかになった。中国語話者には日本同様マスク着用の習慣があり、マスクについての考え方も日本人参加者と似通っている事が判明した。

これらの結果、日本人は一般的に顔の表情を隠す事は失礼であると考えるが、それを上回る必要性のある時には礼儀としてマスクを着け、口元は隠されてもある程度感情は理解できると考える事が明らかになった。感情を口元で表す事が多く、その感情を読み取るべき部分が覆われ、非言語コミュニケーションが阻害されると感じる訪日英語話者とは、文化的な相違がある事が確かめられた。

日本の文化を正しく世界の人々に伝え、異文化の相互理解を深める事は、国際社会の中で今後益々重要な事だと考えられる。